

## 見えない声に耳を傾ける

河原 由実

地元出雲に帰り、小学校や中学校で日本語指導に数年携わった。「帰ったらお姉ちゃんが宿題見てくれるよ。ご飯も作ってくれる。」という小学生。お姉さんの年齢を聞けば17歳だと言う。学校には行っていないのかと問えば、「行かないよ。日本語わからないもん。」とあっさり。

大きな違和感を覚えた。同じタイミングで日本に来て、小学生は日本語指導を受けられて、17歳は教育を受けるチャンスもないのか。本人はどう思っているのか。また、「高校には行かない。行ってもおもしろくない。」という中学生も少なくなかった。違和感が募るごとに、日本語の授業をしていても「この子の行く末は？」と自問自答することが多くなった。

決定的な出会いがあった。中学を卒業して来日した、15歳の子どもだった。「日本に来たら私の行くところはなかった。高校に行けると思ったのに。」行政や複数の機関に相談に行った結果だ。もちろん欲しいのはそんな結論ではない。ならばどうしようと、誰か一緒に考える機会はなかったのか。「行き場がないならつくろう。」そう思って始めたコミュニティには、同じように行き場がなくて家にこもっていた10代や、友達がほしいとか、学校の勉強が難しいから教えてほしいとか、日本語をきちんと勉強したことないからあらためて勉強したいという中学生・高校生が少しずつ集まってきた。求めるものがあつたのに叶わなかった子どもがこんなにいたのかと、率直に思った。義務教育の年齢から外れれば社会の網にはかかりにくく、見えない世界になってしまうことを実感し、15歳以上の子どもたちがメインのコミュニティをつくることにした。共通点は外国にルーツを持つこと。背景は様々で、やりたいことがある人もない人もいる。だが来るからには何かを求めているし、来られない存在も見守る必要を感じる。いろいろ活動をする中で、彼らが最も輝いたのは地域参加だった。ボランティアスタッフとしてイベントを手伝ったり、ルーツを持つ国の文化紹介をしたりする中で、人との出会いを楽しんだ。そして何より、自分が誰かの役に立てた喜びを味わい、高まる自己肯定感を感じ合った。

外国にルーツを持つ過年度卒業生は決して新しい課題ではない。私が出雲で初めて会ったのは10年以上前だったが、当時は地域の日本語教室や近所の人たちが助け合って高校につないだ。出雲市は近年にわかに外国人が増えたのだが、数が増えれば圧倒されることもある。地域の人に関わりにくくなってしまった面もあるのかもしれない。

一般に「子ども」と言えば小学生前後がイメージされがちで、高校生の年頃はおそらく最も注意が向けられない。だが法的に「子ども」と呼ぶからには、意味がある。見るからに守るべき存在と思わせる幼い子どもとは違うが、彼らもそれはわかっている。だからこそ、いざ言いたいことがあっても、言いにくいことがある。困ったときにSOSが出しにくい。甘えたいときに堂々と甘えられない。どうすればいいかわからないときにゆっくり教わるチャンスは、実は少ない。

兄弟の面倒を見ている彼らに、「いつもありがとう。」と言ってくれる人はいるか。

自信をなくしている彼らに、「そんなことないよ。」と支えてくれる人はいるか。

迷いを感じている彼らに、「いい考えだね。」と背中を押してくれる人はいるか。

心配と恐怖で立ち止まっている彼らに、「失敗しても大丈夫。」と包んでくれる人はいるか。そもそも、



家族以外の大人や同じ年代の仲間はあるのか。

そう思って目を向け、ひとこと声をかけてほしい。弱い者として助けてほしいわけでも、特別な何かが必要なわけでもない。ただ大人に最も近い年齢の子どもたちは、社会に出るためのあと一歩の支えを必要としている。存在を気にかけてもらえているという安心感と、社会の一員として認められているという自尊心を感じたいのだと思う。外国にルーツを持つ子どもたちは、広い世界に生きている。アイデンティティを模索する彼らに、「日本にいるからチャンスがなかった」ではなく「日本にいたからこそ自分がある」と感じてもらうには、彼らを尊び愛情を持って接することが、大人の責任ではないだろうか。

河原 由実（ごうばら ゆみ）：

「MANABIYA」主宰者。大学在学中は日本語教育を学びながら難民の日本語教室に参加する。卒業後は障害者福祉の仕事を経てブラジルへ渡り、日本語教育に携わる。帰国後、子どもの日本語指導や外国人と日本をつなぐ活動に関わる中で、長期的で系統的な学習の不足と教育の不平等を体感し、外国にルーツを持つ10代の子どものコミュニティを立ち上げる。趣味は音楽、スポーツ、読書、海外ドラマや映画を見ること。和太鼓チームに所属し、親子で地域の舞台に立つのを楽しんでいる。

\*河原由実さんには、2020年10月に行った島根県出雲市のフィールドワークにて、活動概要の説明や意見交換などで、たくさんの気づきをいただきました。